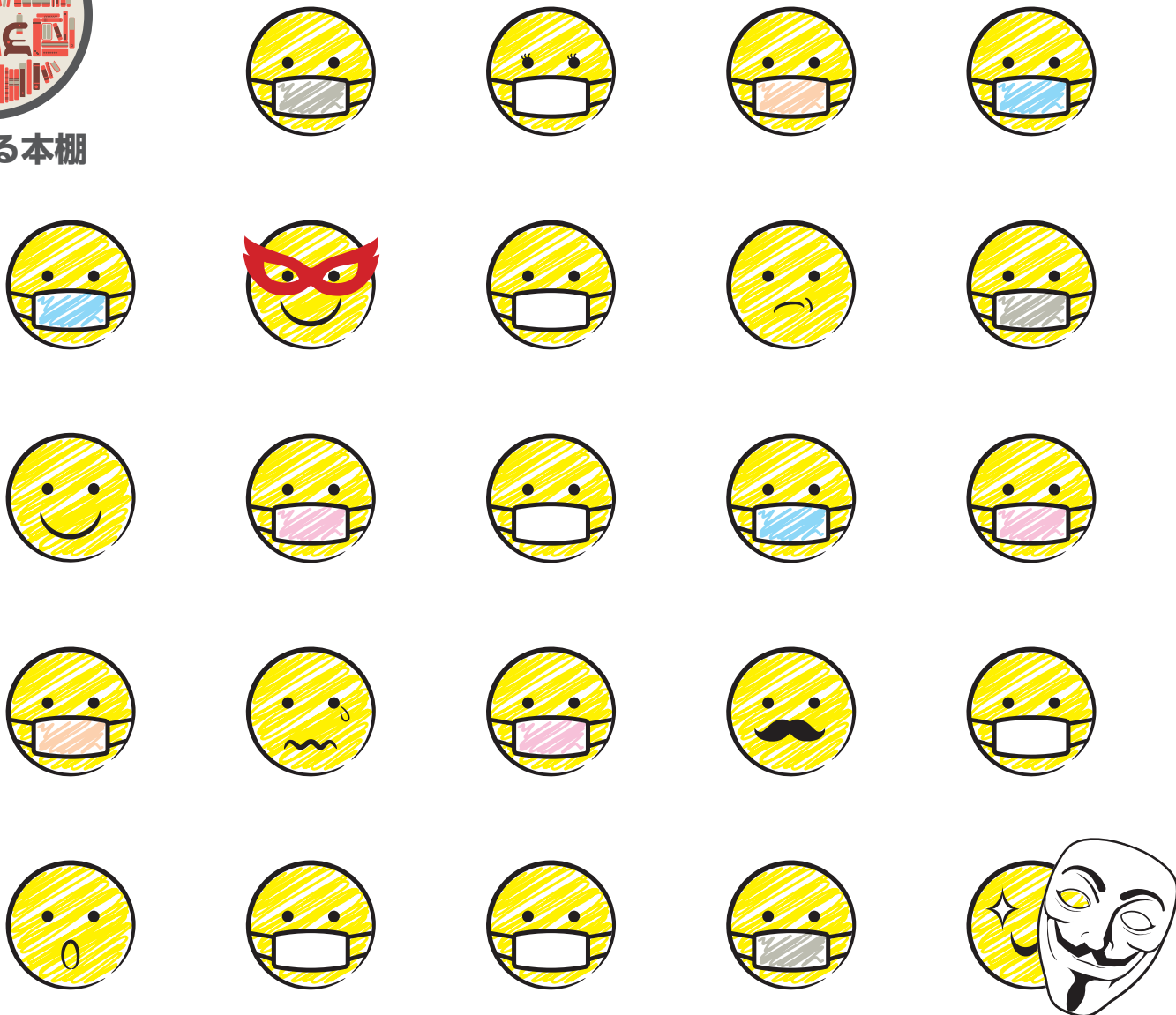




哲学する本棚



みんなマスクだから、マスクの下で笑っているのか、怒っているのか分からない。素顔が見えたらなって思うけれど、笑顔を作る人、わざと怒った顔をする人もいる。新型コロナで、マスク姿がすっかり日常になり、他人の素顔を見ることが少なくなった今だからこそ、マスクと顔について考えてみたい。そういう本を50冊選びました。哲学館ホワイエに期間限定の読書空間が出現します。本を手にとって、読んで、考えてみてください。

マスク／顔

顔を隠す仮面

マスクの下の
素顔

表情と
心の中の感情

本当の私って
なに？

きれいなら
いいのか！

どうして化粧を
するのか？

【本の展示会】
2022年 **1月15日(土) — 3月13日(日)**
会場：哲学館 B1F ホワイエ <入場無料>

※新型コロナウイルス感染症対策のため、会場ではマスクの着用、手指の消毒、検温にご協力をお願いいたします。

■哲学カフェ（西田哲学館地下ホワイエ）

- ・1月29日（土）13:30—15:30
「化粧をすることは必要か？」○定員10名（要申込・参加費無料）
- ・3月12日（土）13:30—15:30
「本当の私ってなに？」○定員10名（要申込・参加費無料）

※哲学カフェは、集まった者同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。

■オンライン哲学カフェ（Zoom）申込詳細はコチラから▶

- ・2月25日（金）19:00—21:00
「顔を突き合わせることは必要か？」



 石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1
TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320
URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>
E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。



開館時間 ■9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 ■月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）、メンテナンス期間
今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては変更となる場合があります。ホームページをご確認ください。

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道〔金沢東IC〕—国道159号線（約20分）
のと里山海道〔白尾IC〕—（約5分）

【JR利用】金沢駅—IRいしかわ鉄道線・七尾線（約25分）—宇野気駅—
—徒歩（約20分）—哲学館





「マスク／顔」

展示書籍のご紹介



1 顔を隠す仮面

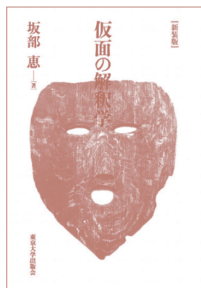


マスクは顔をおおって素顔や表情を隠す。みんながマスクをつけている世界はちょっとした仮装パーティーのようにも見える。仮面やお面をつけるってどういうことだろう？

『仮面の解釈学』

坂部恵／著 東京大学出版会

人は時と場合に応じてさまざまな仮面をもつ。とはいえ、その裏には変わらない自己同一的な私自身が、つまり〈素顔〉があると信じている。坂部恵はこうした〈素顔〉信仰を近代人の病ととらえ、〈仮面〉の不思議なありように注目する。



2 マスクの下で素顔



マスクなしに顔と顔を突き合わせて話をする。この当たり前のことが今では珍しくなった。顔って何だったのだろうか？

『顔の現象学』

鷺田清一／著 講談社

美容師がカメラマンでもなかったら、他人の顔をまじまじと見ることはめったにできない。しかし、かすめ見ることもできないその顔のちょっとした微笑みや揺らめきが、私をうろたえさせ、激しく動揺させる。〈顔〉とはどのような現象なのだろうか。



3 表情と心の中の感情



表情が見えたら相手の心の中の気持ちが分かるかもしれない。けれども、感情を隠して、表情を作ることだってできる。心と感情を考える。

『きもち』

文／谷川俊太郎 絵／長新太 福音館書店
この絵本では、登場人物たちがどんなきもちなのかは書かれていない。そもそも、ほとんど言葉がない。それなのに、シンプルに描かれたそれぞれの顔に、ふくざつな気持ちを読み取ってしまうのはどうしてだろう？



4 本当の私ってなに？



仮面が本当の私を覆い隠しているのなら、素顔が本当の私なのだろうか？
それとも、もっと別のどこかに本当の私がいるのだろうか？

『私とは何か「個人」から「分人」へ』

平野啓一郎／著 講談社

「個人」という言葉は「分割できない」という意味らしい。けれども、旧友としゃべるときの私と職場での私が、分けた方がいらい別人、というのは変なことではない。分割できない本当の私なんていないのかもしれない。小説家が語る新しい人間観。



5 きれいならいのか！



きれい、カッコいい、カワイイ。顔のよしあしを評価する言葉はたくさんある。でも、もちろん顔だけでその人のことを判断することなんてできない。ルックス至上主義を考え直す。

『少女マンガのブサイク女子考』

トミヤマユキコ／著 左右社

少女マンガのヒロインは、たいてい、かわいい。けれどもブサイクなヒロインだっている。美人が得で、ブサイクは損という単純な図式をはるかに超えて展開されるブサイク少女マンガの数々。



6 どうして化粧をするのか？



街中で見かける顔が素顔とは限らない。ひげをそり、口紅を塗り、人は化粧をして顔を作る。
どうして、人間は化粧をしてよそおうのだろうか？

『お化粧しないは不良のはじまり』

山本桂子／著 講談社

「化粧をしない女学生はケシカラン」(百年前の某女子高校長)。名門女学生ほど化粧をした戦前。化粧品会社が全国の高校で「美容講座」を行った高度経済成長期。実は『JJ』から生まれたナチュラルメイク。
明治から現代までの、個性的ではない化粧の歴史。



図書室の紹介

哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をしたい方のための本まで、さまざまな哲学の本が9,000冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください。